



Un film de  
Claude Chabral

新文芸坐シネマテーク vol.31

最強最高のクロード・シャブロール | 後期

01.24 血の婚礼

01.31 肉屋

02.07 汚れた手をした無実の人々

新文芸坐

Indie  
Tokyo

## 血の婚礼

Les noces rouges

1.24[金]

1973/仏=伊/93分



監督・脚本:クロード・シャブロール/撮影:ジャン・ラビエ  
/音楽:ピエール・ジャンセン/録音:ギイ・シシニュー  
出演:ステファヌ・オードラン、ミシェル・ピコリ/クロード・ピエブリュ

リュシエンヌとピエールは不倫関係にある。リュシエンヌの夫ポールは市長であり、ピエールの妻クロチルドは数年間病で寝たきりだ。ピエールはポールの推薦によって副市長になった。クロチルドが突然亡くなるが、それは自殺によるものだと街の噂になる。だが、真相は異なるとピエールはリュシエンヌに告白する。

## 肉屋

Le Boucher

1.31[金]

1970/仏=伊/87分



監督・脚本:クロード・シャブロール/原作:エドワード・ラウ  
クイキ/撮影:ジャン・ラビエ/ドミニク・ザルディ(挿入歌)  
/音楽:ピエール・ジャンセン/出演:ステファヌ・オードラン、ジャン・ヤヌ、ウィリアム・ゲロー

フランスの片田舎の村で行われた結婚式で、帰還兵で現在は肉屋のポールは小学校の教師エレヌと出会う。二人はすっかり気が合い友達となっていった。ポールは時折エレヌの学校に羊の肉などを届けに来て、授業を手伝って帰ったりもする。一方、平和だった村で連続殺人が立て続けに起こるようになる。

## 汚れた手をした無実の人々

Les innocents aux mains sales

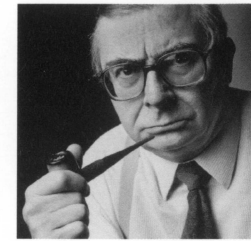
2.7[金]

1975/仏=伊=西ドイツ/121分



監督・脚本:クロード・シャブロール/原作:リチャード・ニーリイ/撮影:ジャン・ラビエ/音楽:ピエール・ジャンセン/出演:ロミー・シュナイダー、ロッド・スタイガー、ジャン・ロシュフォール

ジュリーは夫ルイとサントロペで暮らしている。ルイは裕福だが大酒飲みで性的に不能だ。ジュリーは隣に住む愛人で作家のジェフと一緒に夫殺害を計画する。ジュリーはルイを殴り、後の処理をジェフに任せるところがジェフも夫の死体も共に消えてしまう。ルイ失踪の容疑者となったジュリーは一体何が起きているのか解明しなければならない。



## クロード・シャブロール

Claude Chabrol

1930年6月24日、パリ生まれ。父親は薬剤師で、彼も薬学を専攻した。アンドレ・バザン時代の「カイエ・デュ・シネマ」で映画批評を書き始め、ゴダールやトリュフォーらと出会う。1956年、妻の祖母の遺産を元手にジャック・リヴェットの短編『王手飛車取り』を製作。さらに自らの監督デビュー作『美しきセルジュ』を発表した。続く第2作『いとこ同士』と共に批評的にも興行的にも大成功を収めた。その後も数多くの作品を発表したが、敬愛するサスペンスの巨匠ヒッチコックにならって、その殆どがサスペンスやミステリ映画であった。代表作は『不貞の女』『野獣死すべし』『肉屋』『血の婚礼』『ヴィオレット・ノジュール』『主婦マリーがしたこと』『沈黙の女』『石の微笑』『刑事ベラミー』など多数。2010年9月12日にパリにて死去。

### 新文芸坐シネマテーク vol.13

### 最強最高のクロード・シャブロール|後期

	開場	開映	終映	
1.24[金]	19:00	19:15	20:50	血の婚礼
1.31[金]	19:00	19:15	20:40	肉屋
2.7[金]	18:45	19:00	21:00	汚れた手をした無実の人々

各日、映画終了後に映画批評家・大寺眞輔さんの講義が60分程度ございます(講義終了22:00頃)

### 特別料金

一般 1900円 / 学生 1800円 / 前売・シニア・友の会 1700円



### 大寺眞輔

映画批評家、早稲田大学・日大芸術学部講師。「キネマ旬報」「文藝界」「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」などで映画批評を執筆。著書に「現代映画講義」など。Indie Tokyo主宰。

※整理番号付き前売券は当館窓口・チケットぴあで12/21(土)より一斉発売  
※当日は整理番号順でのご入場となります  
※招待券使用不可

## 新文芸坐

感動はスクリーンから

03-3971-9422  
www.shin-bungeiza.com  
twitter:shin\_bungeiza



### Indie Tokyo Newsletter

上映情報をいち早くお届け! メールマガジン配信

新文芸坐シネマテークをはじめとする企画上映や海外の映画情報、映画レビューを隔週でお届けしています。購読料は無料。登録はこちらから。



共催: IndieTokyo